

広報かわにし

発行所 川西町役場
 発行者 川西町 中村 吉郎
 (町長) 星 南風
 編集人 星 南風
 印刷所 白部 5
 定価 1の動
 11月1日現在
 男 6.899
 女 7.032
 計 13.931
 世帯数 2.797

県知事選挙

投票日は十二月七日

北村知事の辞任にともなう知事選挙の日取りが決まりました。次期知事には私たちにもっともよい県政を行なう人に投票しましょう。投票までの諸日程は次のとおりです。

- 告示日 十一月十二日
- 投票日 十二月七日

◎補充名簿の作成について

調製期日現在日 十一月二十二日
 申請期日 十一月二十三日
 から十一月二十七日
 調製期限 十二月二十九日
 縦覧期日 十二月三十日か
 ら十二月三十一日まで

◎不在者投票の取り扱いについて
 出かせぎの季節で旅立ちされるかたも多いと思われませんが、尊い

基本選挙人名簿 縦覧について

九月十五日現在で調製した基本選挙人名簿を左記期間川西町役場において縦覧にそなえております。から自分が確実にのっているかどうか見てたしかめてください。

縦覧期間 十一月 五日
 十一月十九日 十五日間

毎日、午前八時三十分より午後五時まで。

正しい選挙 明るい県政
 公明選挙で築く新潟県

七年続きの豊作

お米の産どころ、当町では七年続きの豊作をむかえ、この部落でも予約申し込み数をはるかに越えた供米数をあげている。こころは台風、水害、イモチ多雨による発芽などたまたび災害はあったがそれも町全体から見ると全収量の四・三パーセントにとどまり、関係者一丸となつての努力により被害を最少にとどめ、豊作となし得たことはまことによろこばしいことである。味の良い米をと呼はれている現在、各農家でほどこれくらい関心をしめしているかを知るために農協をのぞいてみたが、越光のように味のよい米が三十七・六パーセントで収穫本意の品種が

各農協別供米高 (10月31日現在)

級別	1等	2等	3等	4等	5等	等外	計
上野	874	3,680	3,120	1,679	307	264	9,924
仙田	427	4,640	5,298	1,152	237	191	11,945
橋	1,367	2,773	4,395	1,229	173	95	10,032
千手	599	6,218	7,040	2,973	386	186	17,402
計	3,267	17,311	19,853	7,033	1,103	736	49,303

二十一パーセントをしめしていた。これはここ数年、米質の改善について関係機関及び指導者が積極的にはたらきかけた結果である。だが、今後の問題として川西はもちろんな新潟県の米質は全国の水準を上まわってはいらぬもの、品種が多すぎて統一されていなくて大きな問題がある。



“晩秋”

刈りあとに牛が遊び、農作業に明け暮れた日の忙しかったおともかげただ、開田の土音だけが重く、川西平野をゆるがしている (伊勢平治部落で)

昭和37年度本県産米奨励品種及び36年度における川西町作付率一覽表 (作付面積より)

品種名	区分	作付率	備考
越路早生	早生	18.8	味のよい米 37.6
越光	中生	11.2	
越栄	中生	7.6	
山びき	早生	2.5	21.0
日本海	早生	8.3	
やちがね	中生	3.2	
米山	中生	3.5	
こがねち		3.5	

◎町の本年度作付率は58.6パーセントで水田稲作の土程度である

新米に思う

忙しいにつきた農繁期も終わりの七年続きの豊作の大きな喜びのうちには農神祭をむかえようとしています。

おとなを驚かすような子どもも出て来ました。世界の健康寿命などを調べるに米食の民族が一番短命であり、また米の過食の健康への害はいろいろとあげられます。腹一ぱいの一升めし、一升もちから、カレーライス、肉料理へと変わった農村の嗜好とともに、豊より質への改善がおこなわれ、もっと健康で明るい家庭が、町がもっと自分で作るんだもの、早くにうまい新米をたら腹食べるのが百姓冥利だと顔をほころばせながらA君が語りました。

町づくり

農家を調べたら、家で一番喜ばれている料理はカレーライスがトップで三十六パーセント、二番は肉料理の三十二パーセント、昔の王者、モチ、赤飯類は九パーセントでようやく四位だったと報告しています。一方、戦時戦後の食糧難の影響や学校給食の普及などとともに、日本人の米食万能がパソンの混食へと変わってきつつあることは広くいわれるところですが、オラ子どもは朝昼晩パンを食ってハイキだ!!と米への愛着深いおとなを驚かすような子どもも出て来ました。世界の健康寿命などを調べるに米食の民族が一番短命であり、また米の過食の健康への害はいろいろとあげられます。腹一ぱいの一升めし、一升もちから、カレーライス、肉料理へと変わった農村の嗜好とともに、豊より質への改善がおこなわれ、もっと健康で明るい家庭が、町がもっと自分で作るんだもの、早くにうまい新米をたら腹食べるのが百姓冥利だと顔をほころばせながらA君が語りました。去年、加茂農校で近在農家を調べたら、家で一番喜ばれている料理はカレーライスがトップで三十六パーセント、二番は肉料理の三十二パーセント、昔の王者、モチ、赤飯類は九パーセントでようやく四位だったと報告しています。一方、戦時戦後の食糧難の影響や学校給食の普及などとともに、日本人の米食万能がパソンの混食へと変わってきつつあることは広くいわれるところですが、オラ子どもは朝昼晩パンを食ってハイキだ!!と米への愛着深いおとなを驚かすような子どもも出て来ました。世界の健康寿命などを調べるに米食の民族が一番短命であり、また米の過食の健康への害はいろいろとあげられます。腹一ぱいの一升めし、一升もちから、カレーライス、肉料理へと変わった農村の嗜好とともに、豊より質への改善がおこなわれ、もっと健康で明るい家庭が、町がもっと自分で作るんだもの、早くにうまい新米をたら腹食べるのが百姓冥利だと顔をほころばせながらA君が語りました。

町議会報告

追加千二百万円を議決

会期二日の定例会おわる

十三回町議会定例会は十月三十日に招集され、同日及び三十一日の二日間を会期として審議された。

この定例会の主要議題は、才一年度の総額千二百万円を越える一般会計追加予算をはじめ、国保特別会計追加更正予算、才二室戸台風罹災者に対する町税減免、税率例

災害見舞金等を計上

複雑多岐な一般会計追加

三十六年度の当初予算成立後本格的な追加更正は今回がはじめてである、それだけに予算規模も相当大きく、内容も複雑多岐にわたっているが、この中には九月十六日の才二室戸台風関係の災害調査並びに復旧費、見舞金等のほか、川西中学校建築会計への繰出金の追加、並びに当初予定されていたブルトナー購入補助百万円が減額されて新たに同額の農山漁村振興特別助成事業補助が追加される等当初予算成立後事情の変わったものが織り込まれている。そのあらましは次のとおりであるが、審議の結果原案どおり可決された。

まず才出について金額の大きいものから拾ってみると次のとおりである。

諸支出金三百八十一万一千円の内訳は、二百五十万円が川西中学校建築特別会計への繰出金、百三十一万一千円が賭費として才二室戸台風罹災者見舞金(四十一万四千円)、魚沼学院建設負担金(二十万七千円)、郡養老院負担金(四万七千円)その他各種負担金の合計である。教育費三百一十万円は教育委員会及び各中小学校の経費で、去る八月竣工した橋小学校のステーツ建設追加分七十六万円をはじめ、赤岩小学校や舞谷雪中分校才二室戸台風による災害復旧を含む管轄管理振法、産振法による教材費追加

教科書、修学旅行、学用品補助追加等が主なものであるが、中には十日町高校千手分校(定高)のミルケ給食関係四万七千円等もある。役場費七十四万二千円は町長交際費五十万、台風による災害調査費、備品費等二十四万二千円。土木費六十七万七千円は道路維持修繕費として藤沢千手線十四万六千円、道路改良工事費として白倉野口線改良工事追加二十五万、下原橋復旧費二万、河川管理費一万四千円である。

その他、社会及び労働施設費二十八万七千円、議会費十一万一千円、財産費十萬、統計調査費八千円等があり、才出合計一千二百七十九万三千七百八十八円と追加当初予算からの累計額は一億二千四百六十六万九千九百八十八円となった。これに對して才入は次のとおり地方交付税九百四十八万四千円これは普通交付税の追加分で、今回の追加の主要財源である。分担金及負担金二十四万六千円内訳は消防施設地元負担金二万五千五百円、土木費負担金十五万三千円その他である。国庫支出金五十六万七千円は、教育費補助金五十六万五千円、勸業費補助金二万六千円、保育所負担金五万一千円等があるが、教育費負担金で九万円の更正減がある。この差引右のとおりとなった。

県支出金百八十四万四千円は至島林道、農山漁村振興特別助成等の勸業費補助百五十七万七千円、国土調査委託金二十二万七千円その他である。寄付金五十六万三千円は至島林道地元寄付金その他である。

雑費十二万七千円は国民年金印紙代で、才入合計は才出と同じく一千二百七十九万三千七百八十八円である。

更正減の

国保会計

国保特別会計の追加更正は結果において六万四千四百円の減となったものであるが、そのあらましは次のとおり。

才出、役場費は機構改革による人員の配置転換で四十九万八千円の更正減。保険給付費は医療費値上げにより七十八万一千円の増。保健施設費は保健婦一名退職による減と一般保健施設費の増が双方とも約二十二万で差引五千円の増。諸支出金八万円の国保連合会負担金一万円、被保険者慰安演芸費七万円の。

台風関係四十九人に町税減免

才二室戸台風の罹災者に対する固定資産税の減免については、先に被害激甚者として見舞金をおくられた四十九人に対して総額五万七千円を減免する案が議決された。減免の範囲はA級については三期及び四期分を、B級C級に對しては三期分を減免する、というものである。この案に對して、

議決された

条例その他

川西町税条例の一部改正
市町村民税の非課税の範囲、申告及び徴収に関する手続き、軽自動車税の区分等について地方税法の改正に伴う手続的改正が主体であって、すでに本年度の徴収に実施されているもので、この改正によって徴収その他に実質的の変化はない。

町政に対する一般質問

改選後初の定例会を機に、町政の実態を明らかにし、当局の方針につき次の一般質問が行なわれた。田中三郎 ①機構改革後の運用状況について ②社会教育、公民館の人員補充(庁内)について ③本年度職員定期昇給について ④本年度職員定期昇給について ⑤橋、白倉、大沢線限道編入促進について ⑥滋野一郎 ⑥職員給与並びに議員委員報酬について ⑦登坂敬恒 ⑦教員住宅の整備統合と使用料徴収について ⑧林業振興対策について ⑨青少年の離農対策について ⑩内山常治郎 ⑩職員定期昇給について ⑪公共施設敷地借用料について ⑫軌道敷地の早期処分について ⑬保坂長雄 ⑬職員給与について ⑭川西中統合後、旧千手校舎の処分について ⑮和田光興 ⑮橋地区土地改良区設立問題について ⑯栄橋架橋促進について ⑰職員給与、定期昇給について

町有公舎居宅料条例

町有公舎居宅料について、利用者から一定の居宅料を徴収し、これを住宅の整備のための経費の一端に充当するため、新設した条例である。この条例については、趣旨には異存はないが維持管理が十分でない現状においては、まず整備を行なうから施行すべきであるという意見が多かったが、台風被害復旧のため業者の手不足で遅れてはいるけれども、目下着々手を打っているという当局の説明を了として、十一月一日から適用することに決定した。

千手小学校校舎見舞金中派出席場及び上野小学校校田代雪中派出席場を廃止し、すでに雪派を廃止している星名新田の学舎とともに上野保育所を冬季寄宿舎として収容しようというもの。平見の児童が学区を越えて上野小学校へ通学すること、小学二、三年の児童を親元から離して寄宿舎に収容すること等について検討を要する点はあるが、一応原案どおり可決された。

川西文化財調査

三基の梵字碑発見

川西町の三嶺から

十月十日に、川西町文化財調査が行なわれ、三嶺で梵字碑が三基発見されたことをはじめ、多くの貴重な資料が得られて、関係者をよろこばせている。

梵字碑が目ざされる理由は、それがたいへん古い時代のものが多く、考古、古墳時代につづく歴史時代のものとして、この地方では貴重な具体資料とされていることによる。

とくに、川西町の梵字碑は、すでに三基が資料「日本金石文」に載っていて、南北朝時代の姿をのばせるものとされている。

南北朝時代というのは、むかしわが国の朝廷が二つにわかれて争った時代のこと、楠木正成、新田義貞(南朝方)や足利尊氏(北朝方)のころ、いまから六百四十年くらい前のことである。

町の歴史遺物

として保存

南魚沼郡の梵字碑には多く北朝方の年号が使われているのに、逆に当地方のものは正平二年(友重部落のもの)同十四年(仁田)などのように、南朝方、いわゆる官軍側の年号が用いられている。わたしたちの祖先は、楠木、新田氏らと同じく、南朝方に属して戦ってきたわけであり、上野の節黒城は当時の一大拠点であった。今回発見されたものは、どれも

普通恩給又は扶助料を受けている者、国家公務員又はこれに準ずる(公共企業体等の職員及び地方公務員で地方自治法施行前からのもの)は、この加給恩給の対象にはなりません。

口扶助料の給与は昭和三十六年十月から、普通恩給の給与は昭和三十七年十月から始められます。

ハこの改正により普通恩給又は扶助料を受けることとなる者が、かつて一時恩給又は一時扶助料を受けていた場合には、これを返還するか又は返還しないときは前に受けた一時金の五分の一の額を控除して普通恩給又は扶助料の年額を定めます。

※ 旧日本医療団職員期間及び外国政府職員期間も恩給の在職年に通算されることになりました。

旧軍人等の戦地加算認められる

恩給法の一部を改正する法律が次のように改正されました。

※ 地域加算が認められ恩給の在職年に入れられたこと。

イ旧軍人軍属としての在職年を一定域に勤務した加算年を加えて恩給を受けられる最長在職年限(十二年又は十三年)になる者はその在職年に応じた普通恩給がもらえます。なおこの普通恩給をもらえる本人が昭和三十六年十月一日前に死亡している場合には、その遺族に扶助料が支給されます。ただし、今までの法律によつて

戸籍の窓から

うぶ声 御すこやかに

- 清水 文子 慶蔵長女 中屋敷
高橋 剛 已一長男 中屋敷
高橋 豊 二郎長男 中央町
数藤まつい 輝夫長女 沖立
丸山 新吾 新次郎長男 木落
田中 芳浩 芳男長男 仁田
相馬 博 敏夫長男 木落
村越 仁 正 長男 野口
高橋ゆり子 久治二女 仁田
丸山 浩和 葛作長男 根深
茂野美也子 幸雄長女 藤沢
押木 正巳 富男長男 田戸
小川 秀樹 益栄長男 岩瀬
青木 睦子 藤一長女 小脇
中島恵美子 忠一長女 下平新田

昇天 御めい福を祈る

- 遠田 豊吉 中島町 六九
平野 徳太郎 東善寺 七九
数藤 コシフ 沖立 八一
渡辺 サク 東善寺 四七
高橋 ミユ 上野 五八
中村 ホノ 大白倉 七四
佐藤 甚平 小脇 六六
増田 マツシ 室島 六七
及川 ヨト 中仙田 七五
高橋 リイ 室島 七四
金子 重蔵 岩瀬 七九
登坂 キク 岩瀬 七〇
星名 章 田戸 五二

たかさこ 御円満に

- ◎新郎 高橋 文治 田戸
◎新婦 柄沢 ナツ 沖立から

年金問答

問 わたくしは今回の恩給法改正で軍人恩給を受けられることになりましたが、いままでも国民年金に加入していたためか、その後も復場より毎月保険料を納めるよう納入通知がきます。きけば恩給や年金を受けられる人は国民年金に加入する必要があるとのことですが、わたくしは国民年金をやめたいと思いますが……

答 確かに国民年金法では、恩給や年金を受けられる人、またはそれらの組合に加入している人、およびその配偶者は国民年金に加入しなくてもよいことになっております。しかし、あなたの場合、ことし十月一日より施行にな

つた恩給法の一部改正により、軍人恩給の裁定をこれから申請することにより受けられるのであつて申請して決定になるまでは「軍人恩給を受けられる人」とは言われないのであります。したがって、あなたも決定になるまでは「軍人恩給を受けられる人」ではないのですから、決定になるまでは国民年金に加入していただければならず、また保険料も納めていただくこととなります。

なお、決定になり軍人恩給を受けられることになってからも、本人の希望により、国民年金に加入していることもできます。このようにして、軍人恩給が決定になるまでの期間納めた保険料および決定になってからも希望により納めた保険料については、

すばらしい兄嫁

年一回の秋祭りに呼ばれ、山こえをして実家に帰ったときのことです。兄嫁の人がらの、あまりにも変わったことにすっかり驚いてしまいました。たとえば、子どもをしかるときの態度やしつけかた、何気ないことばのはしはしに以前とは違った何かが感じられたのです。茶の間の入り口には小さな黒板がとりつけられ、そこには買ひ物メモや集金の期日、わたしにはよく意味のわからない新語などが書いてありました。兄は、「この地域に婦人学級が開設され、そこで勉強している」とうれしそうに語ってくれました。(一主婦)

町の声

今度新しくできた法律「通算年金通則法」により、その納めた期間一九九年につき九〇〇円が、軍人恩給に加算して支払われます。

問 わたくしは六月に就職し、厚生年金に加入しました。国民年金については通知がくるので毎月保険料を納め、十月分まで納めました。厚生年金と国民年金に二重加入と思われませんが……

答 国民年金以外の公的年金に加入した人は、その日から国民年金より除かれます。もちろん保険料も納める必要はありません。あなたの場合厚生年金に加入したことを届け出る必要があります。その届けがされるまでは保険料の請求がされます。すでに納めた六月より十月までの余分の保険料は、申し出によりお返しします。

加入した人は、その日から国民年金より除かれます。もちろん保険料も納める必要はありません。あなたの場合厚生年金に加入したことを届け出る必要があります。その届けがされるまでは保険料の請求がされます。すでに納めた六月より十月までの余分の保険料は、申し出によりお返しします。

★三回農林業研修施設運営協議会が十月十二・十三日の二日間、町農協センターで開催された。
 ○一日目は午後一時から開会され、中村町長の歓迎のあいさつに続き農林業改良課米持係長、農業会議中山主事、地元和久井議長のあいさつがあり、ついで、農村交ぼうにおける現在と将来について、中沢徳吉論説委員のユーモアの

農業教育施設 ــــــــــــــــــــــــــــــــــــــــ

新しい方向を検討

ــــــــــــــــــــــــــــــــــــــــ 県農業研究施設運営協議会開く

うちにも各所に警可を入れた講演があり、講師を中心として農村指導について熱心な討議がかわされた。
 ★分科会と総合討議
 ○二日は午前八時から三部門に分かれて分科会が二時間、午前十時から十二時まで総合討議が行なわれた。
 ○一分科会―農業研修のありかた

について―
 (1)新しい村づくりの一環として農村青少年の研修を目的に現在まで運営に当たってきたが、変ぼうする農村部内にあつては、学卒者を中心に他産業就職の増加が著しく研修生確保がきわめて困難となってきたこと。(2)したがって農村青少年研修としての現在のあり方から、もっと広義にこれが施設の運営についての概念を明確に打ち出す必要がある。以上の理由から、司会者横越村建部主事、助言を農林業改良課細員技師、記録新津市佐藤書記によつておこなわれ、農村教育が社会教育との対比において研修施設の活用がなされるべきである。このため現在の農業教育施設における形態を整理し、①組織化されていないグループ(中卒卒業(十八才位まで)②組織化されて活動が自立できるグループ(壮年グループ)の三つに分類し、従来指導の中心としてきた①②のグループのほかに③のグループも指導の対象にするためこの際④年令別、体系別に研修をおこなふ必要性が生じ、また⑤専門別、部門別の研修をおこなふことによつて財政的等十分自立できないグループ指導や、近代的農業経営の指導を今後の計画としてはどうかという結論になった。
 ○二分科会―農民教育活動の総合対策について―
 農村部内に現在ある青年団、婦人学級、青年学級、4日クラブ等の指導教育については、現在ではそれぞれ孤立した形で運営されてきているが、これは農業研修施設を中心に農村文化部の総合的対策

を考へてゆく必要がある。この段階における各教育指導分野のセクト主義を廃止し、市町村にあつては、各グループの連絡を一本化し、また各グループのリーダーを養成して、これらのなかから専任職員を養成して行く。司会者畑野村河原主事、助言者農林業改良課米持係長、記録三和村竹内書記。
 ○三分科会―農業研修施設運営機構の確立について―
 現在では市町村職員が兼務のかわり、運営にあつては万全を期したが、近き将来に専任職員を確保を図り、運営に専念できる体制をかためる必要があることなど討議。司会者豊浦村伊丹技師、助言者農林業会議中山主事、記録朝日村小野書記。
 総合討議
 三分科会においての経過を、それぞれ司会者から報告があり、一分科会から出された法的根拠確立についての意見を討議し、全国的に呼びかけ、管理運営についてのすみやかに上部における指導方針を確立することをはじめ、その他三部門より出された問題点を討議した。
 午後から機構改革と今後の活動の改正案が出され、長谷川聖龍村助役の適切な司会のもとに、全員一致で原案を可決し、新幹事に豊浦村、新津市、畑野村、弥彦村、三和村、川西町、燕市、監事に朝日村、頸城村を選出して終了した。(全国農業新聞より)

赤ちゃんコンクール

入賞者二十名を表彰

本年度乳幼児検診と合わせて行なわれた赤ちゃんコンクールにおいて発育成績の優良であった、次の二十名は六日役場会議室にて賞状と記念品を贈られ表彰された。入賞者は次のとおり。

部 落	父	母	赤ちゃん氏名
沖立	幸蔵	ミイ	五十川 充
学校町	信夫	正子	川崎 俊彦
上野	勲	サイ	蔵品 守
田 戸	達雄	ヨシ	児玉 尚
仁 田	勝雄	チヨ	田中 雅晴
中仙田	文雄	幸	原沢 俊一
四郎兼	幸二	文江	平野 治人
野 口	政幸	アサ	星野 政利
田 戸	信作	松枝	青木 洋子
中仙田	博	敏子	雲野 宏美
新 町	辰雄	ミイ	内山 佳子
上 野	友平	ろめ	田村 清美
木 島	貞吉	カツ	中村 照子
坪 山	森作	ナツ	高橋 政子
野 口	明	フミ	野沢美智子
根 深	惣吉	トリ	丸山 晴美
山 野	昭一	雪枝	宮 千種
仁 田	元一	サト	山田 明美
努 力	賞		
仁 田	一郎	タツ	エ羽鳥 雅彦
仁 田	英二	千恵子	小幡 和示

恐ろしい放射能

八月三十日ソ連は核実験再開を声明以來、世界の反対をよそに急ピツチで施行ついに五〇メガトン級の超大型も爆発したと報せられています。すみきった秋空も死の灰におおわれてしまいました。今わたしたちのまわりには死の灰について、ふたとおりの考えかたをする人があります。こんな程度なら人体に影響なんかあるものかと

組は、一回のテストで個人を評価する危険性、むかしにもどる固定教育へのキグと、誤まった学力観に立つテストとして批判、不穏な周囲の空気にまつまれて、注目のうちに終わりました。町における学校別受験者数は、

川西中(千手)	二二六	二二〇
川西中(上野)	六一	四四
橋 中	七九	六五
仙田中本校	九九	八一
仙田中一分	一六	一
仙田中二分	二九	二〇
計	四二〇	三二〇
合 計	七四〇	八

以上で、全国と町の結果がどのようにであるか、よりよい運用に関心をよせたいものです。

死の灰―人体への経路

野菜も食べられないという恐怖症両極端です。用心はしなければならぬが、そのために食べるべきものはつもらないし、雨にあたってはもうおしまいとひどいノイローゼにかかったり、放射能の害よりもよほど悪い結果があります。死の灰については科学的にはまだまだわからないことが多いのですが、お互に一般にいわれている次の注意を忘れないようにしましょう。

- 1 雨にうたれない。
- 2 雨水、井戸水はなるべくこぼして使う。
- 3 野菜、果実等はよく洗ってから食す。
- 4 雨にうたれた場合は入浴してよく洗いおとす。

才三回青少年実績発表会

たのもししい青年の歩み 研究・発表・つねに前進

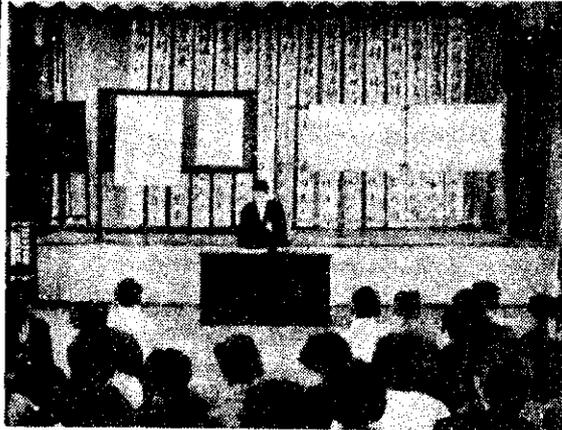
町の青年たちが目をむけている方向はどんなところなのだろうか。それを知るひとつのカギとして、才三回川西町青少年活動実績発表大会は、さる五日千手小学校で開催された。主催は町公民館と青年団連絡協議会で、この日は、特に県教育庁から山田沖哉氏も来町し、終始なごやかなふんい気のうちに、意義ある大会運営がなされたようであった。

この日は、演示部門で参加者がいないという、いちまつのさみしきさはあったが、全般的にながめてみると、発表をとおした青年たちのひとつひとつの思索の中には、将来町のいな手としての真剣な態度がくみとられる。

熱心だった聴衆

当日は、あいにくの雨足がたたってか、集まった聴衆は、過去二回の大会にくらべるともともと少ない百三十名余であった。

の当事者はむろんのこと、婦人会員もまじえて、なごやかな空気のうちに開会。主催者あいさつ、中村町長の祝辞のあと、発表基準と審査方法の説明があつてただちに発表はいはっている。



しかし、青年団員、青年学級生このほか、千手中央青年会の演劇、沖立四日クラブの農業クイズ、橋、上野両地区のおどりなど、豊富な内容をもって、最後に山田沖哉氏の「実績発表です」ので平素わかっていられたことを発表していただけはいいので、成功したことで、失敗したことどちらでもよいのではないか。むしろ失敗談を語り、来年はこうしていきたい例えは、わたくしたち農家の山間部にあつては出かせ

ぎ地帯であります。この出かせぎ問題について発表してもよいのではないかと、もともと身近かな生活の問題を考え、努力されるように「この講評で大会は終了した。発表に優秀なところがあったのは例年のとおりであるが、審査方法を定めて内容を検討した結果は、もっぱら、県の発表大会に、町の代表をおくるための資料とし、さらに、今後の指導方針に役立つもので、これは、発表技術の問題だけでなく、内容的にも、青年たちのとりあげた問題が、視野をよりいっそう深めていくような方向づけとされるはずである。

発表者ひとりの持ち時間は七分で、それに質問時間を三分分けていたが、質問時間がしばしば超過して、審査員のみでなく、とくに、聴衆と発表者の間のやりとりも多くみられたことは前回までの比でなく、婦人の質問も目をひいていた。

発表内容
まじめな研究成果
◎青年団活動とわたしの考え
元町青年会 金子 鉄平
◎ばいれいしょの栽培
大白倉青年会 保坂 秀夫
◎環境衛生をとおした部落活動
仁田青年会 木村ミヨ子
◎前中門を改造してつくった作業場
川辺青年会 小海喜久雄
◎農 休 日
伊友青年会 高橋孝一郎
◎安全で多収な稲作プロジェクト
野口青年会 滋野 凱二
◎開田による稲作の栽培
赤谷青年会 高橋 直孝

また、今回の発表の中に、伊友青年会が「農休日」を実施した結果を発表していたが、これは、昨年の才二回大会で、演劇「休み日」を上演していたことと考えあわせて、発表大会と同日ごろの青年活動の歩みの中に、ひとつのつながりを見つけ出すことができ、発表が発表だけに終わらなかつた、という、りっぱな成果となつている。すでに、農休日をもうけたのが、この伊友をはじめ、新町、上野、沖立と数あることを思えば、この種の大会が、全町的な視野にたつた問題のスタートの場となり得る期待を青年たちに課したいのである。

◎水田におけるPCPの効果 ◎農村と時間 ◎ラジオ農業学校に入学して ◎ラジオ農業学校に入学して

以上が、この日の発表内容であるが、体験発表をのぞくと、いずれも個人のプロジェクトが主としてとりあげられており、ひとりひとりの研究成果が発表されている。これらは、「開田によって耕作反別が増したため、部落の作業場ではまにあわなくなつた」という前中門を改造して作業場をつくつた小海君の動機づけをはじめとして、ようやく一般に使われだしたPCPの効用等、変ぼうする農村開田ブームのわが町にとっては、大きな広がりを持ち得る内容が示されたといえる。

また、今回の発表の中に、伊友青年会が「農休日」を実施した結果を発表していたが、これは、昨年の才二回大会で、演劇「休み日」を上演していたことと考えあわせて、発表大会と同日ごろの青年活動の歩みの中に、ひとつのつながりを見つけ出すことができ、発表が発表だけに終わらなかつた、という、りっぱな成果となつている。すでに、農休日をもうけたのが、この伊友をはじめ、新町、上野、沖立と数あることを思えば、この種の大会が、全町的な視野にたつた問題のスタートの場となり得る期待を青年たちに課したいのである。

以上が、この日の発表内容であるが、体験発表をのぞくと、いずれも個人のプロジェクトが主としてとりあげられており、ひとりひとりの研究成果が発表されている。これらは、「開田によって耕作反別が増したため、部落の作業場ではまにあわなくなつた」という前中門を改造して作業場をつくつた小海君の動機づけをはじめとして、ようやく一般に使われだしたPCPの効用等、変ぼうする農村開田ブームのわが町にとっては、大きな広がりを持ち得る内容が示されたといえる。

以上が、この日の発表内容であるが、体験発表をのぞくと、いずれも個人のプロジェクトが主としてとりあげられており、ひとりひとりの研究成果が発表されている。これらは、「開田によって耕作反別が増したため、部落の作業場ではまにあわなくなつた」という前中門を改造して作業場をつくつた小海君の動機づけをはじめとして、ようやく一般に使われだしたPCPの効用等、変ぼうする農村開田ブームのわが町にとっては、大きな広がりを持ち得る内容が示されたといえる。

収穫の大きかつた郡市青年研修会

めまぐるしくつりかわる社会の中で、青年たちはどんな心構えをもって進んでいったらいいか、青年団活動や青年学級の学習を、どちらに方向づけていったらいいのだろうかを考えるため、さる十月二十八、二十九日の二日間を、当町農業センターで研修会が開催された。主催は中魚沼郡十日町市社会教育振興会、主管は川西町で郡市内の熱心な青年たち約六十名が参加した。

開会第一の講義で佐藤正樹先生(長岡才二高校教諭)は、現代の変転する社会は、戦争終結ということにはじまるひとつの必然的な結果であるかも知れないが、われわれ日本人は、その底を流れる本當の姿を見きわめて行動することが大切で人間形成の最も肝心な時代にある青年たちは、とくに物事の本質を究明していく態度をもつべきであると述べ、現代青年のあるべき姿をしめされた。

またパネル討論では、「わたくしは今日の青年をこのように批判する」ということから始まり、青年らしさがなくなつた、将来への生活設計をもっていないなどと、痛烈な意見からはじまったが、いずれも真に青年を愛する気持ちに発していることと、参加者の心からなる反省をよび、最後に次のような青年への要望で結ばれた。

小川勝次郎振興会長「素直な心を発揚することを道徳であると思ふ。健康な心をもつことによつて平和な社会に寄与してほしい」
富永勇公民館長「週刊誌むいだるうが、たまにはもう少し固いものを心の糧になるものを読んでもほしい」
山内正豊氏「これからの農村には、優秀な男女青年から残つてほしいものだ。将来の農村は、古い融通のきかない考え方で、とても維持できないものに変わっていくだろう」
佐藤徳治県社会主事「農村青年は、ホワイトカラー族にくらべて勉強が足りない。親たちから信頼されるに足る勉強をして、人生の設計図をしっかりと描いてほしい」
佐野良吉氏「二度とふたたび帰ってこない青春を、貴重なものにするため努力してもらいたい。青年たちに読書することをこそ望む友を遣はば書を読み分六分の快気四分の熱という歌があるが、書物をよく読んで、良き友となるよう努められたい」
才二日目は五十嵐秀太郎氏(県社会教育主事)の講義「青年団体のあり方、考え方」によつてはじめられた。
戦後の青年団活動の歴史から、最近の活動不振の原因について問題を具体的にとりあげたので、参加者の大部分をしめる青年団役員にとっては大きな価値があつた。続いての分科会では、家庭生活青年としてのあり方、青年活動について熱心に話しあひがおこなわれた。なお、この研修会の全体を通じて、川西町青年学級の多面にわたる協力は、全参加者から閉会直前に感謝の拍手をうけるなど、研修会に大きな効果が得られた。

稿 研修機関は新品種でないか 中 沢 惣 吉

農村をまわって感じさせられるのは、どこにも寺院が多すぎるほど建立されていることである。しかもその部落の発生とほとんど歴史を同じくしているのだが、どうして、あのような大ガランが当時建てられたか不思議でない。開祖が、それだけの財力をもって開いたのだろうか。何か生産に従事し、いまでいう、もうけた、かといえ、そうでもないさそうである。とにかく人家のあまりにも貧弱なのにくらべ、現在では斜陽法域にちがいないとしても、あの建築物はたしかに驚きということができらるであろう。しかしそれをなしとげるのは、現代人では想像されないうような要因があつたことだし、いわば時世と人心との協和の現われが、あの物的なガランだといつてよいようである。こんにち、よく寺子屋教育というが、これは、軽べつの意味もふくまれているのに、同時にすれば最高学府だつたにちがいない。

さらに最近、どこも、かして、も町村の庁舎が生まれかわりつつある。これは一般の事業場とちがつて、単なる快適な職場たらしめることだけではない意味をもつことももちろんだが、わが国の自治の歴史をかえりみれば、その行政と事務のはじまりは、民家であつた。多くは、その家に読み書きのできる人物があつて、さしたる座敷あたりが利用されたのである。そして新築というようになつてはほとんど行なわれず、たいていは民家の空屋が買われて役場になつていった。現在も、そのおもかげをのこす町村が県内にいくつもある。単位農協も、これとややにしているといつてよいだろう。

寺子屋教育から始まって、私設の塾を生む、それがまた小学校になり、ここ一世紀たらずの間に現状までこぎつけた。役場の名は戸長役場の名をこぎとめて、長役場の名に変わった。そこへもつてきて公民館、農業文化センター、農業研修所といったようにいろいろな機関ができていっている。近ごろ、はつきり、集會場、と名をつけた何もかも兼ねた、集まり場所、をつつたところもあるが、名称はともあれ研修所ということになれば古くから根があつたのを育てあげたのではない。時代のいわば、新品種、だといつてよいように思われる。それだけに、この新品種は、まだまだ完全な試験結果によつて固定化されたものではなく、おたが、それに従事する人が、試作中だといつてもよい。加うるに新品種は人間の心の、あるいは技術の基本的栄養をもっているにもかかわらず、食味や、口あたりが在来品種よりかなりちがつているのである。いずれにしても研修所という新品種は、なかなか普及しにくい性格を生まねがらにもつていようだが、いまちよと創生期の苦悶をしみじみと感じだしたころであろう。しかしながら生まれるべき理由をもつて生み落されたのである。職員がそれに対する自覚をもつこと、もちろん必要であるが、首長や評議員が将来のわが郷土を考へる時、もつこの新品種に目をつけ、いままた種が十年、あるいは二十年さきについに結実することを認識しなければならぬ。研修というふうな人づくり事業は、そういう認識をもつところにおいてのみ始めて可能なものではあるまいか。(新潟県農業会議教育情報部長)

町の掲示板

- 校長・教頭異動
教育委員会は昭和三十六年度の中間教職員人事異動を十一月一日付で発令したが、川西町関係は次のとおり。(一)内は旧任校
津南町外丸中校長(仙田中)
登坂 精 一 (52)
仙田中校長(中仙田小)
藤本 秀 雄 (54)
十日町市下条中教頭(川西中)
星 名 英 一 (41)
中仙田小校長(下条中)
大島 良 作 (52)
母子衛生優良町村
十月七日新潟日報ホールにおいて開催された二回新潟県母子衛生大会において川西町は母子衛生優良町として県知事から表彰された。なお、この日の母子衛生研究発表には上野若葉会の中島キヨキさんが出場し上野地区の育児活動について発表、万場の拍手を浴びた

て育児や産婦の健康について相談し指導することになりました。訪問指導の費用は県と町で支払うことになっておりますからその点には御心配されなく御相談や指導に応じてください。(国保係)
●冬期出かせぎ者は 被保険者証を持参し
秋の取りいれもおわり出かせぎの季節となりましたが、一カ月以上わたる出かせぎ者には国保の被保険者証から本人分だけをわけてつくとつてやられることになりましたので、入用の方は被保険者証と印章を持って国保係に申し出てください。(被保険者証を持参しければ出かせぎ先で医療を受けられた場合に半額だけ支払は残りの半額は役場に請求されることになりました。)ただしこれは医師において保険請求をとり扱ってくださる場合のみです。御承知ください。

●石油開発その後
坪山の平見地区でいまさかんに掘削している地下資源開発のその後、進行状況は、十一月二日現在で深度一、八二五メートルでこの間油もガスも湯の気もなかったといわれるが目下一台二〇〇馬力のエンジン四台をフルに動員し、日に三十ないし七十メートルずつボーリングして、本月二十日を目標に二、五〇〇メートルまで昼夜兼行六人三交代で突貫工事を続行するもし湧出しなかつた場合はこの工事は一応中止し、場所を変えてさらに綿密な地質検査を実施して試掘する予定である。

かわにし 俳壇 太田白南風選
元町 金子鉄平
自転車の灯のすすみゆく稲架の道
裏山へ森つづきなるもす音
争つて秋刀魚焼く炬を立ち去りぬ
越ヶ沢 小川辰治
銀嶺を遠くおきたる菊花壇
小白倉 田中緑風
野鍛冶の火焙上げの霜の朝
大倉 金子洋石
縋りくる瀬音夜寒の橋わたる
鉄平氏の句の句、立ち去りぬはまだ弱い感じ。辰治氏菊の句、北に見ゆという説明はいらない。作者が固定したがその人たちは上達してきてうれい。しその実のこぼれつとして伏したるよ白

後記
※後任をひきうけてからすでに半年、どうやら六回の編集を終りました。広報の目的は「行政内容」を住民に広くわかりやすく、親切に広報し、それによつて住民の理解と協力を求め、行政の成果に大きく寄与しようとする」ことにあるといふことは編集関係者はじめ、読者各位も周知の、いまさらくりかえすまでもない広報の金策ではあります。行なうはがたく、期待にそえ得る広報への道の遠いことを痛感し、努力を重ねたい念願です。
※文化祭、実績発表会、展覧会、学芸会、勤労感謝の日との月は多形です。一日一日と風が冷たくなって冬仕度にも心せられます。